

昭和20年(1945)に関連したレファレンス事例の紹介

新城 敦

はじめに

本稿は本誌第17号に続いて、昭和館図書室に寄せられたレファレンス事例を紹介するものである。レファレンスは利用者が調査や研究を行う過程において、図書や雑誌、文献などの情報(資料)についての問合せや相談があった際に、資料を検索し、情報を提供することによって、利用者の手助けをする業務である。

今年は戦後75年にあたり「昭和20年(1945)」に関連したレファレンス事例を取り上げることにする。

今回の内容を見ると、玉音放送、東京大空襲および各地の空襲、原爆、食糧関連、物価、国策ポスター等の掲示物、地名、防空壕、防空訓練などの動員関連、疎開、ラジオ放送、交通、接収、GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)、D・マッカーサーなど多岐にわたっている。

終戦時の情報を求める利用者の関心は高く、今後においても様々な内容のレファレンスに対応できる図書資料の充実をはかっていきたい。

凡 例

I 回答欄の表記について

1行目：提供資料名(複数の場合は、回答欄に①②③…の順で表記)

2行目：(昭和館図書資料番号, 請求記号)

3行目：各資料の内容(該当ページ数や情報等)

例：①『書名』著者(編者・監修者・撮影者等), 出版社(者), 出版年(西暦)

(100012345, 916/Se55)

p.10「……」との記述あり。

※ 紹介した資料以外に参考情報を示したものもある。

II 回答に引用したインターネットアドレス(URL)の最終確認日は、令和元年12月末である。

III 掲載したデータは令和元年12月末時点のものである。

質 問	回 答
<p>2014/8/22</p> <p>昭和20年(戦中)の食事、特に主食について知りたい。量や内容など、できるだけ具体的なものがよい。</p>	<p>①『東京食糧営団史』東京食糧営団史刊行会/編, 東京食糧営団史刊行会, 1950 (000043567, 611/To46) p. 776, 786, 788に昭和20年の配給についての記述。巻末資料にも「主要食糧配給状況一覧表」あり。</p> <p>②『昭和 第6巻』講談社/編, 講談社, 1990 (000025599, 210.7/Ko19/6) p. 294~295「飢餓と戦う『決戦食』」</p> <p>③『昭和 第7巻』講談社/編, 講談社, 1989 (000025600, 210.7/Ko19/7) p. 106~107「窮迫する食糧事情」</p> <p>④『戦争中の暮らしの記録』暮らしの手帖社編集部/編, 暮らしの手帖社, 1980 (000019242, 916/Ku55)</p> <p>⑤『たえがたき・を・たえ』Iの会/著, 伊藤一男/編, PMC出版, 1982 (000050579, 916/I56) p. 24~, p. 29~</p>
<p>2014/8/22</p> <p>昭和20年7月29日に朝鮮の蔚山(ウルサン)で沈没した御用船、昭隆丸について知りたい。乗っていた人の名簿はあるか。</p>	<p>①『知られざる戦没船の記録 下巻』戦没船を記録する会/編, 柘植書房, 1995 (000020557, 391.2/Se57/2) p. 139 昭隆丸の記述あり、乗船名簿はなし。</p>
<p>2014/10/23</p> <p>玉音放送の内容を全文コピーしたい。</p>	<p>①『玉音放送』竹山昭子/著, 晩聲社, 1989 (000032361, 699/Ta68) p. 122~124</p>
<p>2014/10/25</p> <p>昭和20年3月、高知県須崎市であった空襲について。グラマン機が飛来してきた時期が知りたい。</p>	<p>①『高知県史 近代編』高知県/編, 高知県文教協会, 1970 (000027920, 218.4/Ko15) p. 571</p> <p>②『高知の戦争遺跡』戦争遺跡保存ネットワーク高知/編, 平和資料館・草の家, 2003 (060004908, 218.4/Se73) p. 6</p> <p>③『高知市戦災復興史』高知市戦災復興史編纂委員会/編, 高知市, 1969 (000046824, 518/Ko15) p. 7</p>
<p>2015/2/28</p> <p>昭和20年3月10日の東京大空襲で、現在の江東区木場(当時の深川区木場3丁目付近)の戦災状況を知りたい。自宅を改築しようとしたところ、家の下から遺構が発見され、それが空襲時のものかどうかを調べている。戦災に遭った地区の地図や写真も見たい。</p>	<p>①『東京大空襲・戦災誌 第1巻』『東京大空襲・戦災誌』編集委員会/編, 東京空襲を記録する会, 1975 (000018865, 210.75/To46/1) p. 449~465</p> <p>②『地図で読む東京大空襲』菊地正浩/著, 草思社, 2014 (060004959, 213.6/Ki24) 旧深川区の地図については、江東区の区立図書館、東京大空襲に関する地図などの資料については「東京大空襲・戦災資料センター」を紹介。</p>
<p>2015/5/7</p> <p>戦中の食糧難について調べている。食糧がなぜ行き渡らなくなったのか、摂取カロリーのデータや昭和20年7月頃に配給が滞ったことなどが分かる資料があるか。</p>	<p>①『昭和 第7巻』講談社/編, 講談社, 1989 (000025600, 210.7/Ko19/7) p. 106「窮迫する食糧事情」にカロリーデータあり。p. 108 昭和20年7月11日の欄</p> <p>②『昭和日本史 7』坪田五雄/編集兼発行, 暁教育図書, 1977 (000018507, 210.7/Sh97/7) p. 130~131「食生活の実態」</p> <p>③『戦後食糧行政の起源』小田義幸/著, 慶應義塾大学出版会, 2012 (000056400, 611/O17)</p> <p>④『全集日本の食文化 第11巻』芳賀登・石川寛子/監修, 雄山閣出版, 1999 (060001066, 383.8/Z3/11) p. 184</p> <p>⑤『史料週報 第32巻』藤原彰/監修, 大空社, 1988 (000021026, 317/Sh89/32)</p>

2015/5/27

昭和20～21年の物価(公務員や小学校教員の初任給額、ハガキ・切手などの値段など)を知りたい。当時の古本の価格に「金2円」とあったが、当時としてはそれが高いのか安いかわからず、目安を知りたい。

- ①『値段史年表 明治・大正・昭和』週刊朝日編集部/編, 朝日新聞社, 1988
(060001414, 337/Sh99) より
p. 67 「公務員初任給(上級職・大卒)」540円
p. 92 「小学校教員初任給」300～500円
p. 202 「ハガキ」5銭

2015/6/30

昭和20年頃の張り紙やポスターなどについての資料はあるか。

- ①『ポスターに見る戦中・戦後』昭和館学芸部/編, 昭和館, 2011
(060004309, 727/Sh97)
②『平和を築くとき』東谷敏雄ほか/監修, 日本機関紙出版センター, 1996
(060001338, 210.75/To79/2)
実物資料の複製版を掲載

2015/7/15

終戦の詔勅(玉音放送)の現代語訳で政府が作成したものがあるか。

政府が発表したものは該当なし。以下は現代語訳を掲載

- ①『玉音放送』竹山昭子/著, 晩聲社, 1989
(000032361, 699/Ta68)
p. 142～144
②『玉音放送が流れた日』福住一義ほか/編, 学習研究社, 2005
(000047150, 210.75/G99)
p. 68～69
③『昭和史の天皇 30』読売新聞社/編, 読売新聞社, 1976
(000023976, 210.7/Y81/30)
p.332～334

2015/7/17

昭和20年(1月1日～8月15日まで)の中国の写真が見たい。

キーワード: アジア 中国 写真

- ①『朝日新聞外地版 68 満洲版・北支版・中支版(1945年)』坂本悠一/監修, ゆまに書房, 2011
(060004380, 071/A82/68)
②『東方社カメラマンがとらえた市民の暮らし』山辺昌彦ほか/著, 政治経済研究所付属東京大空襲・戦災資料センター戦争災害研究室, 2013
(000057857, 210.75/Y18)
p. 16～20に写真あり。
③『戦中・戦後の記録写真』井上祐子ほか/著, 政治経済研究所付属東京大空襲・戦災資料センター戦争災害研究室, 2014
(000057854, 210.75/I57/1)
p. 32～44 参考文献掲載

2015/8/15

「玉音放送」について。昭和天皇の音声がかかる前に流れた、アナウンス部分の内容を知りたい。

キーワード: 玉音放送 和田信賢

- ①『「玉音」を聴いて』四方一瀬/編, 『「玉音」を聴いて』編集委員会, 2005
(000052102, 916/Y81)
「玉音放送に関する資料」に「資料1 玉音放送前後のアナウンス原稿」が掲載。
冒頭のアナウンスを行った日本放送協会放送員(アナウンサー)和田信賢氏の回想録
②『放送ばなし』和田信賢/著, 青山商店出版部, 1946
(080005693, E699/W12)
p. 224～ 「嗚呼八月十五日正午」という関連記述あり。

2015/11/18

玉音放送の英訳が載っている資料はあるか。

【参考】

国立国会図書館「レファレンス協同データベース」
https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000075816
に掲載あり。

2015/12/11

昭和20年当時の乾パンは今と同じ形状だったのか。

- ①『帝国陸軍戦場の衣食住』学習研究社, 2002
(060002018, 396.9/R25/39)
p. 153 「昭和6年に…現在も市販されている乾パンと同サイズの小型乾麺に切り替わった」との記述あり。

2016/2/24

台東区下谷周辺で東京大空襲に遭った父親が「東京大空襲の時は空襲警報のサイレンが10回も15回も鳴り続けていた」と語っていたが、本当にその時そんなに頻繁にサイレンが鳴っていたのか、裏付けになる資料はないか。

- ①『台東区戦争体験記録集』台東区戦争体験記録集編集委員会/企画・編，東京都台東区教育委員会，2015
(060005784, 916/To46)
p. 24 東京大空襲時の空襲警報と警戒警報についての解説あり。サイレンの回数については掲載なし。
- ②『下町が燃えたあの夜 改訂新版』『下町が燃えたあの夜 改訂新版』編集委員会/編，東京大空襲 犠牲者追悼・記念資料展実行委員会，2009
(060003755, 210.75/Sh92)
p. 20 「九死に一生を得て」
- ③『東京空襲下の生活日録』早乙女勝元/著，東京新聞，2013
(060004966, 210.75/Sa67)
p. 107 「『警戒警報』は三分間の連続吹鳴のサイレン」等の記述あり。空襲警報についての掲載なし。

【参考】

「東京大空襲・戦災資料センター」を紹介。

2016/2/27

1. 終戦の詔勅の実物が見たい。
2. 教育勅語を巻物にして奉安殿に収めていたという話を聞いたが、どのような巻物（サイズや状態）だったのか知りたい。

1. について
- ①「終戦の詔勅」の現物は国立公文書館が所蔵、デジタルアーカイブで閲覧可能。昭和館では、『終戦の詔書（複製）』（060003611, 210.75/Sh99）を所蔵。
- ②『戦争とくらしの事典』戦争とくらしの事典編集部/編，ポプラ社，2008
(000050399, 210.75/Se73)
p. 26-27 写真（複製）の掲載

2. について

- ③『図説近代百年の教育』唐澤富太郎/著，国土社，1967
(000026391, 372.1/Ka62)
p. 117 写真の掲載

2016/5/11

東京大空襲で爆撃された場所の範囲を知りたい。

- ①『東京大空襲・戦災誌 第3巻』『東京大空襲・戦災誌』編集委員会/編，東京空襲を記録する会，1975
(000018867, 210.75/To46/3)

【参考】

「東京大空襲・戦災資料センター」を紹介。

2016/8/4

戦時中～昭和20年5月までの6～10歳の米の配給量が知りたい。

- ①『太平洋戦争下の労働者状態』法政大学大原社会問題研究所/編，東洋経済新報社，1964
(000036814, 366/H91)
p. 135
- ②『戦時戦後の日本経済 下巻』コーヘン J. B. /著，岩波書店，1951
(000025336, 332/C83/2)
p. 153～155
- ③『全国戦災史実調査報告書 平成13年度』日本戦災遺族会/著，日本戦災遺族会，2001
(000042196, 210.75/N71/2001)
p. 45
- ④『東京都食糧営団史』東京都食糧営団史刊行会/編，東京都食糧営団史刊行会，1950
(000043567, 611/To46)
p. 759

2016/10/21

長崎への原爆投下について調べている。当初は小倉へ投下予定だったが、雲があったために断念して、目標地点を長崎市に切り替えたということだが、それに関する資料がないか。

キーワード：小倉 原爆

- ①『軍事史学 第44巻第1号～第45巻第1号：第173号～第177号（平成20年6月～21年6月）』軍事史学会，2008～2009
(160002984, 392/G94/44)
※第44巻第3号(通巻175号) p. 91～108 「小倉に落ちなかった原爆」（秋吉美也子）
- ②『原爆投下の経緯』奥住喜重・工藤洋三/訳，東方出版，1996
(000029840, 210.75/G34)
p. 289

	<p>③『原爆投下報告書』奥住喜重ほか/訳, 東方出版, 1993 (000020803, 210.75/G34) p. 78</p> <p>④『マッカーサー回想記 下』ダグラス・マッカーサー/著, 津島一夫/訳, 朝日新聞社, 1964 (000002775, 289/Ma13/2) p. 102</p> <p>⑤『北九州・戦時下の市民のくらし』北九州市立歴史博物館/編, 北九州市立歴史博物館, 1995 (000054367, 219.1/Ki65) p. 73</p> <p>【参考】 国立国会図書館「レファレンス協同データベース」 https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000057799 に掲載あり。</p>
<p>2016/12/14</p> <p>熊ノ返山(山形県)への海軍機墜落について詳細を知りたい。</p> <p>A) 昭和20年8月に海軍機が墜落し、搭乗員8人全員死亡した。その慰霊碑が山形県最上町に建立された。</p> <p>B) 昭和20年8月3日 攻撃708飛行隊 末吉中尉機が山形県内で山に激突し、墜落した。</p> <p>C) 昭和20年8月3日「末吉正弘」が記載された戦没者名簿</p> <p>上記3点のコピーを持参。A記事中の墜落機について、B記事中の末吉機かどうか確認できる資料を探している。Cは参考資料。</p>	<p>キーワード：攻撃708飛行隊(721航空隊) 末吉正弘中尉</p> <p>①『古鷹 第23号(昭和62年1月)』[海軍兵学校]第七十五期会, 1987 (100019444, 397/F94/23) p. 82~85「嗚呼、攻撃第七〇八飛行隊」記事内に隊内の戦没者が記載。8月3日に末吉正弘〔ママ〕中尉が亡くなっていること、兵学校73期出身であることを確認。</p> <p>キーワード：海軍兵学校73期</p> <p>②『海軍兵学校第七十三期 期会名簿』海軍兵学校第73期クラス会委員/, 73期クラス会事務局, 1965 (000018982, 397/Ka21) 戦病歿会員名簿に末吉正弘記載あり、家族の名前、出身などを確認。</p> <p>末吉中尉の出身地(鹿児島県加治木町)遺族会および最上町立図書館、教育委員などへの問い合わせを案内。</p> <p>【関連資料】攻撃第708飛行隊 戦闘概史 『ヨーイ、テューッ!』中攻会/編, 文藝春秋, 2005 (000046945, 916/C64) p. 519に掲載。</p>
<p>2017/2/10</p> <p>昭和20~30年代の</p> <p>1. 紙芝居を見るのに子どもが支払った金額を知りたい。</p> <p>2. 昭和20年代の道路の舗装率を知りたい。</p>	<p>1. について</p> <p>①『紙芝居屋の日記』阪本一房/著, 関西児童文化史研究会, 1990 (000047795, 779/Sa32) p. 10</p> <p>②『紙芝居屋さんどこ行った』浅井清二/著, 「紙芝居屋さんどこ行った」刊行委員会, 1989 (000057961, 779/A83) p. 10, p. 74, p. 140~143</p> <p>2. について</p> <p>③「完結昭和国勢総覧 第1巻」東洋経済新報社/編, 東洋経済新報社, 1991 (000036670, 351/Ka56/1) p. 483</p>
<p>2017/2/28</p> <p>1. 昭和20年からの北海道全域や樺太引揚げの写真が見たい。</p> <p>2. 上記年代当時の写真を再現したいが、サイズや質感についてわかる書籍はあるか。</p> <p>3. 上記年代でのかまどのおかまの焼き方献立、作り方などを知りたい。</p>	<p>1. について</p> <p>【北海道】※街並みや暮らしの様子</p> <p>①『空知の昭和』いき出版, 2014 (060005409, 211.5/Sh59)</p> <p>②『小樽・後志の昭和』いき出版, 2015 (060005707, 211.7/Sh13)</p> <p>③『函館市の昭和』長谷部一弘/監修, いき出版, 2012 (060005325, 211.8/Sh13)</p> <p>④『北海道(中央部)』岩波書店/編, 岩波書店, 1957 (000041981, 291/I95/232)</p>

- ⑤ 『北海道（東・北部）』岩波書店/編，岩波書店，1957
(000041962, 291/I95/212)
- ⑥ 『北海道（南部）』岩波書店/編，岩波書店，1956
(000041958, 291/I95/207)
- ⑦ 『写真で見る日本8』高木恒雄/編，日本文化出版社，1957
(000048814, 291/N71/8)
- ⑧ 『写真で見る日本9』高木恒雄/編，日本文化出版社，1957
(000048815, 291/N71/9)
- 【樺太引揚げ】
- ⑨ 『望郷樺太』望郷樺太編纂委員会/編，国書刊行会，1979
(000020215, 229/B63)
p. 201～208
- ⑩ 『樺太連盟四十年史』全国樺太連盟/編，全国樺太連盟，1988
(000038238, 369.37/Z3)

2. について

「日本カメラ博物館」などを紹介。

3. について

- ⑪ 『新版 昔のくらしの道具事典』小林克・神野善治/監修，岩崎書店，2014
(060005434, 383.9/Ko12)
p. 12～13
- ⑫ 『台所道具いまむかし』小泉和子/著，平凡社，1994
(000020420, 383.9/Ko38)
- ⑬ 『昭和台所なつかし図鑑』小泉和子/著，平凡社，1998
(000033549, 383.9/Ko38)
p. 66～68 ※ 改良かまどについて記載

2017/8/14

1945年8月14日（終戦前日）における空襲の全国的犠牲者数を知りたい。

キーワード：空襲 8月14日 犠牲者数

- ① 『日本の空襲 10』日本の空襲編集委員会/編，三省堂，1981
(000018808, 210.75/N71/10)
巻末の「全国戦災都市空爆死没者数一覧」
- ② 『日本大空襲』朝日新聞東京本社企画第一部/編，原書房，1985
(000052293, 210.75/A82)
p. 196～197 「日本空襲年表」
- ③ 『熊谷空襲』鯨井邦彦/編著，熊谷雑学研究所，2010
(000053318, 213.4/Ku25)
p. 68 「4. 最後の空襲を受けた他市の状況」

【参考】

総務省ホームページ

・熊谷空襲

熊谷市における戦災の状況（埼玉県）

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/daijinkanbou/sensai/situation/state/kanto_05.html

・土崎空襲

秋田市における戦災の状況（秋田県）

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/daijinkanbou/sensai/situation/state/tohoku_04.html

・小田原空襲

小田原空襲の碑

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/daijinkanbou/sensai/virtual/memorialsite/kanagawa_odawara_city001/index.html

中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンターニュース記事

・岩国空襲

あの恐怖 忘れられぬ 岩国空襲70年 終戦前日まで9回標的

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=42170>

	<p>・山口県光市 終戦前日の空襲 悲劇忘れぬ 旧光海軍工廠で犠牲 生徒悼む 山口 http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=35170</p>
<p>2018/3/15 昭和20年8月10日の新潟市の空襲の写真はないか。雑誌『丸』で米軍が撮影した航空写真が連載されていたこともあるので、そちらに掲載がないかも調べてほしい。</p>	<p>該当する写真はなし。以下に調査過程と参考資料を記す。 キーワード：新潟 空襲 米軍 写真 公文書館 ①『1945・昭和20年米軍に撮影された日本』日本地図センター，2015 (000060073, 210.75/N71) に新潟空襲の記述と図はあるが、別日のもの。 ②『戦場としての新潟』新潟市/編，新潟市，1998 (000046494, 214.1/N71/2) に記述あり(写真なし)。 ③『新潟県民の太平洋戦争』新潟日報事業社出版部/編，新潟日報事業社出版部，1985 (000050544, 214.1/N72) に長岡空襲についての写真掲載あり。</p>
<p>2018/5/4 昭和20年頃の船橋市の町名がわかる地図はないか。文字資料ではなく、地図から確認したい。</p>	<p>地形図や住宅地図を所蔵していないため、図書で昭和20年頃の船橋市の地図を収録している資料を紹介。 ①『新日本都道府県別地図帖 昭和22年版』日本地図/編，日本地図，1947 (000000555, 291/Sh64/1947) 「全国市町村字名大鑑」提供。船橋市の地図はないが、町名一覧あり。</p>
<p>2018/5/4 昭和20年の給与が現在の貨幣価格に換算すると何円に相当するのかわかる資料はないか。</p>	<p>①『完結昭和国勢総覧 第2巻』東洋経済新報社/編，東洋経済新報社，1991 (000036671, 351/Ka56/2) 産業別給与に関する統計は収録されているが、現在の貨幣価値への換算は不可能。 ②『完結昭和国勢総覧 第3巻』東洋経済新報社/編，東洋経済新報社，1991 (000036672, 351/Ka56/3) 指数が昭和63年まで掲載されている。当時の1円の価値が現在何倍になっているかこの指数から計算できるので、換算して計算してもらうよう案内。 平成以降の指数は掲載なし。</p>
<p>2018/5/18 下記1~4に該当する資料を探してほしい。2・3については、写真が載っている資料を希望。 1. 1945年のお正月の様子についてわかる資料を探してほしい。 お正月ムードはあったのか、お正月飾りをしたり、正月特有の配給があったりしたのかわかる資料や表向きは自粛されていたが、個人的にこっそりお正月をしていたというような個人の手記でもよい。</p>	<p>1. について ①『朝日新聞縮刷版 昭和19年10~12月』朝日新聞社/編，日本図書センター，1987 (000015074, 071/A82/1944-4) ②『朝日新聞縮刷版 昭和20年上半年』日本図書センター，1987 (000015050, 071/A82/1945-1) 昭和19年12月30日~20年1月3日の紙面を確認、挺身隊が疎開地に物資を持って行ったという内容の記事や、正月に関する記事が数点あるが、戦時下の決戦調の記事が多く、平時の賑やかなお正月というイメージとは異なる。 ③『学童疎開の記録 4』全国疎開学童連絡協議会/編，大空社，1994 (000019736, 372.1/Z3/4) p. 426~430 ④『大阪市の学童集団疎開』大阪市史編纂所/編，大阪市史料調査会，1987 (000046370, 216.3/O73) p. 79 ⑤『兵庫県学童疎開関係史料集成 第2輯』人見佐知子/編，甲南大学人間科学研究所，2012 (000056064, 372.16/H77/2) p. 41 疎開先の児童にお餅や正月用のお菓子が配られたり、疎開先で正月のもてなしを受けている様子などの新聞記事や記述あり。 ⑥『田無非核・平和運動資料集 上巻』田無市編集委員・田無市総務部庶務課/編，非核・平和をすすめる田無市民の会，1994 (000038435, 319/Ta85/1) p. 162 「250 正月特配の品々」 ⑦『ぼくの軍国少年期』赤田喜美男/著，まつやま書房，1994 (000052282, 289/A28) p. 199 「昭和二十年の正月日記」 ⑧『昭和館 戦後70年写真展 写真集』昭和館図書情報部/編，昭和館，2015</p>

<p>2. 婦人会の防火訓練の様子がわかる資料。</p> <p>3. 婦人会の竹槍訓練の様子がわかる資料。</p> <p>4. 防空壕の作り方がわかりやすく書かれている資料。</p>	<p>(060005719, 748/Sh97) p. 6 「3.新年の餅つき」 一般家庭でも正月用品が配られたり、餅つきをしたり、餅を食べていたことがわかる。</p> <p>2. について</p> <p>⑨ 『女たちの昭和史』『女たちの昭和史』編集委員会/編, 大月書店, 1986 (000033221, 367.21/O66) p. 50 「御国のために」防空演習のバケツリレーの写真あり。</p> <p>⑩ 『写真記録昭和の歴史 2』小学館, 1984 (000036305, 210.7/Sh13/2) p. 130 「みんな総出で防空演習」(昭和13年)</p> <p>⑪ 『昭和の女』影山光洋/著, 朝日新聞社, 1965 (000004486, 367.21/Ka18) p. 110 「防空服に身をかため」</p> <p>3. について</p> <p>⑫ 『写真記録昭和の歴史 3』小学館, 1984 (000036306, 210.7/Sh13/3) 「それでも竹槍訓練」(昭和20年)</p> <p>⑬ 『昭和館 戦後70年写真展 写真集』昭和館図書情報部/編, 昭和館, 2015 (060005719, 748/Sh97) p. 31 「30.女性の竹槍訓練」</p> <p>4. について</p> <p>⑭ 『防空絵とき (コピー資料)』大日本防空協会/編, 大日本防空協会, 1942 (000043316, 391.38/D25) p. 75~80 「防空壕の作り方 其の一~其三」</p> <p>⑮ 『隣組家庭防空必携』風間鐵太郎/編, 東京毎夕新聞社, 1941 (000038895, 391.38/Ka99) p. 162~166 「三、防空壕」</p> <p>⑯ 『自家用簡易防空壕及待避所の築造要領』建築学会/編, 建築学会, 1941 (000046362, 524/Ke41)</p> <p>⑰ 『防空待避施設指導要領』大日本防空協会/編, 大日本防空協会, 1942 (000052512, 391.38/D25)</p> <p>⑱ 『防空建築と待避施設』石井桂/著, 東和出版社, 1944 (000045160, 524/I75 閉架一般)</p>
---	---

2018/7/5

<p>1. 昭和20年1月のラジオ放送について。戦時中のお正月にどのような放送が流れていたか、内容を知りたい。ラジオ放送を再現したいので、番組表ではなく、番組内容の原稿(ニュース番組ならばニュースの原稿等)を知りたい。</p> <p>2. 「空襲警報」「警戒警報」について。市内に発令される警報のほか、ラジオからも警報が流れたと思うが、どのような文言が流れていたかを知りたい。ラジオの原稿があればなお良い。</p> <p>1・2ともに、できれば広島・呉の資料を探しているが、なければ全国どの地域のものでも構わない。</p>	<p>キーワード：ラジオ 台本 ラジオ小説</p> <p>1. について</p> <p>① 『放送五十年史』日本放送協会/編, 日本放送出版協会, 1977 (000024046, 699/N71) p. 164 「空襲下の放送」で昭和20年1月1日のラジオ内容を示している。勸進帳を放送(原稿や台本は掲載なし)。</p> <p>2. について</p> <p>NHKアーカイブス NHKみのがしなつかし「空襲警報」 関東甲信越を管轄した東部軍管区司令部からの放送 https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009060063_00000</p> <p>② 『幻の声』白井久夫/著, 岩波書店, 1992 (000055699, 916/Sh81) p. 142: 昭和19年7月8日の九州空襲時の情報放送の文言。 p. 166: 昭和20年3月9日の東京大空襲時の情報放送の文言。</p> <p>③ 『放送五十年史』日本放送協会/編, 日本放送出版協会, 1977 (000024046, 699/N71) p. 165~166 関東地区への警戒警報と空襲警報の例文と放送の流れが紹介されている。</p> <p>④ 『太平洋戦争下の防空資料』小山仁示/編, 大阪市史料調査会, 1981 (000053409, 216.3/Ko97) p. 51 「ラジオ班用」(大阪府警察局の警備放送用文例)</p> <p>⑤ 『放送 第8巻第6号(昭和13年6月)』日本放送出版協会, 1938</p>
---	--

	<p>(100028811, 699/H93/8-6) p. 67～、p. 69～(昭和13年、小倉放送局のアナウンス)</p> <p>※1・2とも広島および呉に限った資料はなし。「NHK放送博物館」を紹介。</p>
<p>2018/8/16</p> <p>戦後、日本語の文章表記が「右タテ書き」から「左ヨコ書き」になったのは、いつ頃からか。</p>	<p>①『ことばの昭和史』大石初太郎ほか/著、朝日新聞社、1978 (000033269, 810/O33) p. 207～</p> <p>②『新聞集成昭和史の証言 第16巻』本邦書籍、1988 (000036787, 210.7/Sh59/16) p. 341(国語審議会の答申)</p> <p>③『横書き登場』屋名池誠/著、岩波書店、2003 (000045355, 810/Y54)</p>
<p>2018/8/17</p> <p>昭和20年頃(戦中)にNHKのラジオ歌謡という番組(放送時間:夜7～8時)で流されていた「けりこみ隊」という歌の歌詞や楽譜はないか。</p>	<p>楽譜は基本的に収集していないが、以下の内容で検索。 キーワード1:ラジオ歌謡 NHK 戦中 戦時 歌 キーワード2:古関裕而 斬込隊 特別攻撃隊 昭和20年4月に「国民合唱」というラジオ放送で初放送された「特別攻撃隊『斬込隊』」だと思われる。 ①『日本軍歌全集』長田暁二/著、音楽之友社、1976 (000060459, 767/O72) p. 316 「特別攻撃隊『斬込隊』」(作詞:勝承夫/作曲:古関裕而)の歌詞、楽譜あり ②『評伝古関裕而』菊池清麿/著、彩流社、2012 (000056100, 762/Ko83) p. 297「古関裕而ディスコグラフィ」に「新譜発売年月:昭和20年4月」、備考に初放送日等の情報あり。</p>
<p>2018/10/12</p> <p>昭和20年2月25日にあった東京での空襲について、何時から始まったのかを知りたい。</p>	<p>①『東京大空襲・戦災誌 第2巻』『東京大空襲・戦災誌』編集委員会/編、東京空襲を記録する会、1975 (000018866, 210.75/To46/2) p. 78「空襲体験記録」</p> <p>②『東京大空襲・戦災誌 第3巻』『東京大空襲・戦災誌』編集委員会/編、東京空襲を記録する会、1975 (000018867, 210.75/To46/3) p. 184「軍・政府(日米)公式記録集」</p> <p>③『日本の空襲 3』日本の空襲編集委員会/編、三省堂、1980 (000018801, 210.75/N71/3) p. 6</p> <p>④『Target Tokyo 日本大空襲』佐久田繁/編、月刊沖繩社、1979 (000032156, 210.75/Ta91) p. 646「日本本土空襲概報」</p>
<p>2018/12/14</p> <p>縁故疎開をした人物の聞き書きをしている。</p> <p>1. 疎開先からの帰京について 昭和20年8月以降に疎開先の栃木県から帰京しようとしたができず、昭和22年に帰ったようだが、帰京できなかった理由をご本人がはっきりと覚えていない。食糧難や住宅難が理由だと思われるが、裏付けを取りたいので、参考になる手記集や体験談はないか。 また、縁故疎開者が帰京するのに、何かしらの基準で優先順位がつけられたりしていたのかわかる資料はないか。</p>	<p>1. について キーワード:縁故疎開 疎開 復帰 帰京 ①『あの時 子どもだった わたしたちは…』明日も平和であるためにを推進する会/編、崙書房出版、2015 (000059641, 916/A92) p. 209 上野出身の方が甲府、沼津へ疎開に行ったが、終戦後の上野は物騒だったためその後も一年ほど沼津で暮らした旨記述あり。 ②『一子ちゃんの手紙』大和田一子/著、光書房、1979 (000050497, 916/O69) p. 78 集団疎開だが、戦後三か月ほど疎開先から戻れなかった。昭和20年9月に受けた郷里の母からの手紙に「東京は是からアメリカの兵隊が来る様になるので、一子等もすぐには帰れないでしょう」とある。 ③『わたしの空襲体験とその後』住吉泰男・小園崇明/編、東京都慰霊協会、2016 (060005866, 916/To46) p. 64 戦災孤児となったため終戦後も疎開先にとどまった例。 ④『下谷浅草 小学校と児童の歴史』佐々木直剛/著、佐々木直剛、1983</p>

2. 配給と住民票について

なぜ配給を受けるために住民票を移したりしたのか。そもそも住民票は移せたのか。

(080003947, E372.13/Sa75)

p. 96 学童疎開が終っても、家が焼けただため、東京に戻った者は少なかった。と記述あり。

⑤『文部行政資料 第1集』文部省/編, 国書刊行会, 1997

(000048303, 373.2/Mo31/1)

p. 151 「疎開学童ノ復帰ニ関スル件」あり。

⑥『全国戦災史実調査報告書 平成14年度』日本戦災遺族会/著, 日本戦災遺族会, 2002

(060002019, 210.75/N71/2002)

p. 87

2. について

配給は世帯台帳に基づく。世帯台帳がのちの住民票になる。

⑦『東京市切符制沿革史』東京市役所, 1943

(080003156, E671/To46)

p. 38 「第四章 市民世帯台帳」

⑧『隣組同志』後藤真雄/著, 成徳書院, 1941

(000049557, 318/G72)

p. 219 「転入転出、異動」については常会で報告紹介するとある。

⑨『都史資料集成 第11巻』東京都公文書館/編, 東京都公文書館, 2012

(000055233, 213.6/To46/11)

⑩『東京百年史 第5巻』東京百年史編集委員会/編, 東京都, 1979

(000021327, 213.6/To46/5)

⑪『総合配給制度に関する調査』東京市役所/編, 東京市, 1943

(080003157, E671/To46)

⑫『戦時生活と隣組回覧板』江波戸昭/著, 中央公論事業出版, 2001

(000042672, 210.75/E12)

⑬論文「住民台帳の歴史的考察とその変化法則」茶谷達雄, 日本社会情報学会 (ウェブで閲覧可)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasi/17/0/17_0_127/_pdf-char/ja

⑭『大阪市の学童集団疎開』大阪市史編纂所/編, 大阪市史料調査会, 1987

(000046370, 216.3/O73)

2019/1/18

『週刊少国民』第4巻第18号(昭和20年5月6日号)のp. 4~6に、「神鷲と鉛筆部隊」という記事が載っているかどうかを知りたい。

①『週刊少国民 昭和20年5月6日号=第4巻第18号』朝日新聞社, 1945

(100013679, 051/Sh99/1945-5)

「神鷲と鉛筆部隊」の掲載を確認。

2019/2/15

昭和20年に戦争が終わってから、国内の大都市(札幌・東京・名古屋・大阪・福岡)での行き来(主に人の移動)が制限されたことがあると聞いた。移動制限について根拠となる法令等があるのか、あるならばどのような法令なのかを知りたい。
※当時の体験者の話を聞いている際に、福岡から親戚を訪ねて東京へ行き、再び福岡に戻ろうとしたところ、移動制限のため戻れなかったという話が出てきたので、裏をとりたいたいとのこと。

①『日本国有鉄道百年史 第10巻』日本国有鉄道/著, 日本国有鉄道, 1973

(000025108, 686/N71/10)

p. 131 「第5 戦後輸送の混乱と復旧」

②『日本国有鉄道百年史 第11巻』日本国有鉄道/著, 日本国有鉄道, 1973

(000025109, 686/N71/11) ※目次参照

③『時刻表にみる国鉄旅客営業のあゆみ』須田寛/著, 日本交通公社出版事業局, 1978

(000037034, 686/Su13)

p. 68 「(一) 旅客輸送」

④『国鉄乗車券類大事典』近藤喜代太郎・池田和政/著, JTB, 2004

(000045352, 686/Ko73)

p. 291 「3 占領下の状況」

【参考資料】

⑤『時刻表でたどる特急・急行史』原口隆行/著, JTB, 2001

(000042459, 686/H32)

p. 93 「終戦後の混乱について」

⑥『戦中・戦後の鉄道』石井幸孝/著, JTBパブリッシング, 2011

(000055135, 686/I75)

p. 115 「終戦直後の列車運行について」

⑦『国鉄の戦後がわかる本 上巻』所澤秀樹/著, 山海堂, 2000

(000038656, 686/Sh97/1)

⑧『食糧管理史 5 [1]』食糧庁食糧管理史編集室ほか/編, 統計研究会, 1958

(000024964, 611/Sh96/5-1)

p. 684 「第三款 移動制限に関する諸措置」

2019/2/26

戦後、接収された百貨店があるなかで、高島屋は接収を免れた。
接収された百貨店と接収されなかった百貨店は、どのような理由でわかれたのか(百貨店以外の事例もあれば)。

【その他】

鉄道関係の問い合わせ先として「鉄道博物館」を紹介。

【接収された百貨店の社史等】

- ①『伊勢丹百年史』伊勢丹広報担当社史編纂事務局/編, 伊勢丹, 1990
(000034919, 673/I69)
p. 96 「当社が接収を受けた理由は、戦時中陸軍が使用していたこと、建物が宏壮華麗(こうそうかれい)で戦災を免れていたこと、立地条件が良かったことなどに基づくものであった」との記述。接収命令書の写真掲載あり。

【百貨店以外の接収(不動産)】

- ②『GHQ 東京占領地図』福島鑄郎/編著, 雄松堂出版, 1987
(000031861, 210.76/F84)
p. 15 一般的な接収条件の記載あり(p. 44~45 主要接収建物一覧あり)
- ③『東京百年史 第5巻』東京百年史編集委員会/編, 東京都, 1979
(000021327, 213.6/To46/5)
p. 1351~1354 接収について。第一生命保険ビルが接収されたのは堅固な建物であったことも理由のひとつだった事などが記載。
- ④『図説占領下の東京』佐藤洋一/著, 河出書房新社, 2006
(060004688, 210.76/Sa85)
p. 46 ざっくりとした接収地の区分けについて記載あり。丸ノ内: オフィス、銀座~築地: サービス、東京湾沿: 港湾・倉庫。
p. 96 住宅についての条件が記載。
- ①皇居から45分以内に位置する東京地区の洋室に改造しうる住宅
②次の基準を満たす。a. 丈夫 b. 設備・暖房が良好 c. 手入が行き届いている d. 内装が良い e. 間取り指示 f. 家具や設備の状態などを調査項目として挙げ、接収対象を探した。

【参考】

- ⑤『銀座と戦争(増補版)』平和博物館を創る会/編著, 平和のアトリエ, 1993
(060003749, 210.75/H51)
米軍撰取建物土地図(京橋区)があり。
- ⑥『写真と地図で読む! 知られざる占領下の東京』渡邊秀樹/編, 洋泉社, 2006
(000048394, 213.6/W46)
- ⑦『中央区史 下巻』東京都中央区役所/編, 東京都中央区役所, 1958
(000011360, 213.6/To46/3 閉架一般)
p. 1134 「非戦災の大ビルが続々とねらわれる始末で」との記述あり。
区内接収建物及び土地一覧表。
- ⑧『写真で読む昭和史占領下の日本』水島吉隆/著, 太平洋戦争研究会/編, 日本経済新聞出版社, 2010
(000053916, 210.76/Mi96)
p. 32~35 皇居・丸の内周辺の地図と主要接収建物の比較表あり。
- ⑨『日本百貨店協会一〇年史』日本百貨店協会/編, 日本百貨店協会, 1959
(000036430, 673/N71)
p. 26~, p. 49~接収の記載はあるが解除嘆願への言及が主で接収基準等には触れていない。

2019/5/31

インターネット検索をしていたところ戦後の闇市で「命売ります」と書かれたプラスチックカードを持っている男性の写真を見た。個人のブログにも掲載されていたが、ブログの名前は覚えていない。この写真の出典が何か知りたい。出典そのものでなくても、参考になる資料があれば紹介してほしい。

依頼者本人には未確認であるが、ブログ『戦後焼け跡ヤミ市時代 頭上は果てしない青空』
<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~soulp/sbml.htm>
のことと思われる。

毎日フォトバンクで検索すると「命売ります」で数点ヒットする。1948年6月数寄屋橋に貼られた命売りますのポスターの写真など。

- ①『戦後50年』毎日新聞社, 1995
(000020423, 210.76/Se64)
p. 28に同じ写真あり。
- ②『東京闇市興亡史』猪野健治・東京焼け跡ヤミ市を記録する会/編, 草風社, 1978
(000023798, 210.76/To46)
p. 340 「売るものがない女は、からだを売り、男は「いのち売ります」の札を首からぶらさげて、銀座の焼け跡に立った」との記述あり。

	<p>③『広島新史 市民生活編』広島市/編, 広島市, 1983 (000022597, 217.6/H73) p. 135 「命売ります」の張り紙も出た」</p> <p>④『昭和世相史』岩崎爾郎・加藤秀俊/共編, 社会思想社, 1971 (000061799, 210.76/Sh97) p. 69 「“命売ります”と一青年が広告」</p> <p>⑤『有楽町60年』朝日新聞社, 1984 (080003652, E070/A82) p. 84 昭和29年5月、数寄屋橋にて「命売ります」の青年の写真あり。</p>
--	--

2019/7/10	
8月15日の終戦後も樺太で戦闘があったが、それはいつ、どのような戦闘だったのか知りたい。	<p>キーワード：樺太 終戦</p> <p>①『樺太一九四五年夏』金子俊男/著, 講談社, 1972 (000023533, 916/Ka53)</p>

2019/8/11	
子どもにもわかる終戦の詔書の全文(口語訳)がのっている資料はないか。	<p>①『玉音放送が流れた日』学習研究社編集部/編, 学習研究社, 2005 (000047150, 210.75/G99)</p> <p>②『昭和天皇玉音放送』川上和久/解説・著, あさ出版, 2015 (060005681, 210.75/Ka94)</p> <p>どちらも底本は</p> <p>③『昭和史の天皇 30』読売新聞社/編, 読売新聞社, 1976 (000023976, 210.7/Y81/30)</p>

2019/9/8	
昭和20～21年頃について	1および2について
1. 隠退蔵物資のうち食糧は民間の手に渡り、市井(闇市)に流れていたのか?	①『東京闇市興亡史』猪野健治・東京焼け跡ヤミ市を記録する会/編, 草風社, 1978 (000023798, 210.76/To46) p. 27 隠退蔵物資について。「軍用食料の乾パン、缶詰類が多量に含まれており、露店に流された」との記述あり。
2. どんな食糧があったのか? たとえば鮭缶、羊羹など、当時なかなか手に入らないもので、どんな食糧が隠退蔵物資として隠されていたのか?	②『激動二十年』柳本見一/著, 毎日新聞西部本社, 1965 (000059238, 219.2/Y53) p. 113 「隠退蔵物資」※金属類が主。
	③『経済安定本部戦後経済政策資料 第6巻』総合研究開発機構戦後経済政策資料研究会/編, 日本経済評論社, 1994 (060000166, 332/So28/6) p. 3 「隠退蔵物資摘発実績調」
	④『朝日クロニクル20世紀 第4巻(昭和16年-昭和25年)』朝日新聞社, 2001 (000040411, 209/A82) 1947-8 「世相をさらに暗くした隠退蔵物資の横領」
	⑤『真相 復刻版 第1巻』三一書房, 1980 (100021513, 051/Sh69/1) 第13号「隠退蔵摘発と官憲の正体」という記事内で、世耕代議士の証言として「水飴とその原料が都内某所に隠退蔵されているという情報あり」という記事や「世耕氏にこの情報を提供したのは池袋駅前商店街の親分らである」との記述あり。

2019/9/23	
戦後GHQ占領下で出版物が焚書になった経緯などを知りたい。概説書、解説書はないか。	<p>①『GHQに没収された本』澤龍/編著, サワズ出版, 2005 (000047894, 027/Se72)</p> <p>②『GHQの没収を免れた本』占領史研究会/編著, サワズ&出版, 2007 (000049720, 027/Se72)</p> <p>③『GHQ焚書図書開封』西尾幹二/著, 徳間書店, 2008 (060003658, 210.7/N86)</p> <p>④『GHQ日本占領史 第17巻』連合国最高司令官総司令部/編纂, 竹前栄治・中村隆英/監修, 天川晃ほか/編, 日本図書センター, 1999 (000038528, 210.76/A42/17)</p>

2019/10/4	
昭和20年8月15日前後の日記を探している。地域は東京近辺(東京都内または神奈川県など都市中心)に絞っている。日記を書いた人物の年齢・性別がわかればなお良い。また、日記の内容がわかれば、手記や概説書など資料の形態は問わない。	<p>①『東京罹災日記』大島辰次/著, 大島信雄/編, 日本図書センター, 1992 (000017519, 916/O77) p. 179</p> <p>②『授業がなかった学校』伊藤治子/著, 偕成社, 1986 (000056042, 915/I89) p. 106</p>

	<p>③『愛国中学生の日記』赤塚順一/著, 東京六法出版, 2016 (000061681, 916/A33) p. 110</p> <p>④『吉沢久子、27歳の空襲日記』吉沢久子/著, 文藝春秋, 2015 (000059509, 916/Y94) p. 217</p> <p>⑤『昭和戦争文学全集 第14巻』阿川弘之ほか/編, 集英社, 1965 (000042872, 918/Sh97/14) p. 315前後に柳田国男「炭焼日記」の8/15辺りの記録あり。</p> <p>⑥『昭和のくらし研究 第14号』昭和館/編集,発行, 2015 (160004092, 069/Sh97/14) p. 106「昭和館所蔵 公刊された昭和20年の日記目録」</p>
--	---

2019/10/31

1945年9月下旬に天皇とマッカーサーが会見をしたが、翌日の新聞には記事のみで歴史的に有名な二人並んで写った写真は掲載されず、翌々日になって写真が掲載された。
流通している資料を読んで、翌日に写真が掲載されなかったのは、外務省または情報部が掲載を禁じたため、GHQの指令で翌々日に写真が掲載されたと推察しているが、何か参考になる資料がないか調べてほしい。

- ①『マッカーサー元帥と昭和天皇』榊原夏/著, 集英社, 2000
(000038971, 210.76/Sa31)
内務省より発表をひかえさせたが、GHQの指示で公開。
- ②『占領期メディア史研究』有山輝雄/著, 柏書房, 1996
(000033487, 070/A78)
p. 179～
上記①の典拠だと思われる。
「国立公文書館アジア歴史資料センター」レファレンスコード検索A07040001500〔諸達書類編冊(庶務)等〕(公文書館所蔵)のp. 195 関連書類あり。
<https://www.digital.archives.go.jp/DAS/meta/listPhoto?BID=F0000000000000217134>
- ③『GHQへの日本政府対応文書総集成 1』竹前栄治/監修, エムティ出版, 1994
(000031878, 210.76/G39/1)
p. 444に関連書類あり (No.187)
- ④『占領期新聞資料集成 第4巻』有山輝雄/監修, ゆまに書房, 2001
(000042628, 070/Se72/4)
p. 493「新聞言論の自由に関する追加措置、新聞映画通信に対する一切の制限法を撤廃の件」
- ⑤『新聞検閲制度運用論』中園裕/著, 清文堂出版, 2006
(000048629, 070/N46)
p. 386 会見から発禁、GHQによる発禁取り消しまでの流れ。
- ⑥『新聞の歴史 3』羽島知之/編著, 日本図書センター, 1997
(000032356, 070/H16/3 閉架一般)
p. 31 GHQが内務省の「新聞紙等掲載禁止令」を撤廃させたとの記述あり。

著者プロフィール

新城 敦 (しんじょう・あつし) 昭和47年(1972) 東京都生まれ。
東京工芸大学写真学科卒業。現在、昭和館図書情報部図書情報課図書係長。